



# ほけんだより



高木保育園  
8月号

プール遊びやどろんこ遊び、虫採りなど、夏ならではの遊びを満喫している子ども達。たくさん体を動かした後は、モリモリご飯を食べて、しっかりと睡眠をとりましょう。  
今月は、夏に多い感染症についてお知らせします。

## ヘルパンギーナ



### 症状

夏によくかかる、ウイルス性の夏かぜの一種です。喉の痛みを伴う、39℃以上の高熱が2～4日間続きます。喉の奥が赤くなり、小さな水ぼうやかひょうが見られるのがこの病気の特徴です。下痢や嘔吐などの症状が出ることもあります。

### 家庭での処置

高熱が出るため、脱水症状や熱性けいれんを起こすこともあります。熱性けいれんの既往がなければ解熱剤で一時的に熱を下げてよいでしょう。水分補給をしっかりと行うことも大切です。嘔吐が見られたり、食欲が著しく低下しているようなら、医療機関を速やかに受診しましょう。感染力はそれほど強くなく、1～4日で熱は治まります。



## 水いぼ

ウイルスの感染によってできる「いぼ」の一種で、ぷつぷつとした水ぼうやが体全体に散っていることもあれば、部分的に固まって発症することもあります。乾燥肌やアトピー性皮膚炎の人が、かかりやすい傾向にあるようです。時間はかかりますが、自然治癒します。爪を短く切って清潔にしておき、患部をかいでいぼをつぶしたりしないようにしましょう。

## ◆ 流行性角結膜炎 ◆

流行性角結膜炎(りゅうこうせいかくけつまくえん)はアデノウイルスの感染で起こる、結膜炎の中でも一番典型的な病気で、1～5歳によく見られます。潜伏期間が8～14日と長く、目の充血、多くの目やに、涙に加え、リンパ節の腫れや痛みなどを伴います。感染力が強いので、発症したら医師の指示に従い、許可を得てから登園しましょう。症状は発病してから1週間くらいがピークですが、完治には2～3週間かかります。感染力も強いので、タオル、ティッシュペーパー、洗面器など、顔に触れる物の共有は控えましょう。

